



— NGO「HUTAN」

フランスのNGO「HUTAN」は、イザベル・ラックマン、マーク・アングレナズ両博士より、1996年に設立されました。ボルネオ島北部のサバ州地域の人々と野生動物の平和的な共生をめざして活動を展開しています。現地スタッフの雇用と育成を通じて活動を地元根付いたものとし、地域社会における啓発活動で人々の理解を深めています。また、文化的に女性の社会進出の機会が少ない中、女性の植林チームを育成するなど女性の活躍も後押ししています。

- アブラヤシ農園でのオランウータン保護と研究
- ボルネオゾウと人との平和な共存にむけた取り組み
- サイチョウ保護・繁殖のサポート
- 「アナツバメの保護」と「ツバメの巣産業」の復興
- 熱帯雨林の森林再生
- 野生動物の調査、保護、違法行為の取締り
- 生物多様性管理のための知識と技術の向上
- 環境意識向上のための教育プログラムの実施



植林活動



希少動物保護活動

教育プログラム



— 非政府組織 NGO「HUTAN」への支援

ホロニクスグループの支援先として京都大学がNGO「HUTAN」を推薦した理由「活動の継続性と信頼性」

継続性

NGO「HUTAN」は設立以来、環境保護活動継続の実績があります。オランウータンをはじめとする希少動物保護のための植林、観察、パトロール、環境調査、教育などの多岐にわたる活動を現地スタッフとともに組織的に展開しています。

信頼性

「植林活動」は、苗木を植えるだけでなく、その後苗木を「大きく育てていく」ための管理が重要な活動です。熱帯雨林では苗木を植えた1ヶ月程で周りに雑草が生い茂る状態になり、放置すれば苗木は枯れてしまいます。NGO「HUTAN」では現地の森を再生する熱帯植物の特性を学び、植林のトレーニングを受けた現地スタッフが従事しています。植林した場所を決まったルートで巡回し、苗木の手入れや300種類を超える木々の生育や結実具合などの調査を歩いて行っています。これまでに4つの森林再生区画の植林に取り組み、オランウータンなどの希少動物が暮らすために必要な38種の木々を植え、3～5年の手入れをすることで80～90%の木々を森に定着させています。



育てた苗木を背に植林に向かうスタッフ